

小さなメッセージ

校長 武井 正明

2年前に公開された『Perfect Days』という映画がある。

近い古びたアパートに住むトイレ清掃員・平山は、薄暗いうちに目をさまし、毎日同じ手順で身支度をして車に乗り込む。車内では懐かしい音楽を聴きながら、公衆トイレを転々と巡り、隅々まで磨き上げていく。仕事が終わると、銭湯に行き、地下の大衆食堂で食事をすませ、布団の中で文庫本を読む。規則的な日々の中で、平山は小さな楽しみを数多く持っている。いつも昼食をとる神社の境内で木々を見上げて写真を撮る。木の芽を掘り返して持ち帰り、部屋で育てている。

そんな平山がいつものように公衆トイレを掃除していると、トイレの洗面台の隅に挟んである紙切れを見つけた。それを開くと、井桁（いげた）の真ん中に「○」が一つ書いてあった。「○×ゲーム」の対戦の申し込みだった。井桁に「×」を書き込み元の場所に挟む。翌日、そのトイレ掃除に行くと同じ場所に同じ紙が挟んであった。それを開くと「○」が一つ増えていた。平山は「×」を書き込み元の場所に戻した。

昨日の朝、生徒玄関のお花を撮影しようとカメラを構えると、ふと「花材 ・ニューサイラン・カラー・アリストロメリア」とメモされた小さな一枚の紙を見つけた。



その紙の文字を見ながら、そうか。いつも生けてくださっているあの方が書いてくださったんだ…。

もちろん、吉中生が日々の生活の中で、毎週替わるこの花々に関心を寄せてくれていたら素晴らしい。ただ、自分の中学時代を振り返るに、感性に乏しい自分は、花に関心など、殆どなかった。

それでもいいと思う。…そのうちわかるから。

過日、いつものあの方とお話しした時、「実は先生方の心が少しでも和んでくれれば、という願いも（この花に）込められているのです」とお聞きした。いい日ばかりではない。大切な人を亡くした最近、花たちによく慰められている。吉中で最もこの花々に癒されているのは、私なのかもしれない。

毎日同じ繰り返しにしか感じない日常の中で、平山のように、ささやかな楽しみを持ちながら、慎ましく生きることは、実はとても貴いことなのではないだろうか。

あの方の優しい心が伝わる。たった一枚の、小さな紙のメッセージが、私の一日のスタートを、微笑みから始めさせてくれた。心の籠った花々、いつもありがとうございます。